



一般社団法人宮城県情報サービス産業協会

MISA 平成24年度新入社員研修（募集のご案内）

1. 主催・実施：一般社団法人宮城県情報サービス産業協会

2. 目的：＜ビジネス基盤系＞

社会人として必要な基本動作から各種ビジネススキルやコミュニケーション力等の習得を通じ、新入社員の総合的な実務基礎力の養成と社会人意識の定着を図る。

＜IT技術系コース＞

選りすぐりの講師陣によりシステムエンジニアに必携の基盤技術を系統的に習得し、新入社員のIT実践技術の養成と技術思考スキル、人間力の本質的向上を図る。

3. 研修の特徴：

(1) IT企業の将来を担う中核人材の育成

基本動作とコミュニケーション 顧客目線で考える力 開発全体を理解した上での技術習得

(2) MISA研修独自の取り組み

双方向のフォローアップ 他社新人との交流・刺激 開発プロセス体験と業務応用力育成

4. 開催日程と受講料：()：認定職業訓練のコース)

[受講料：消費税の別途負担なし]

コース名	日程	受講料
ビジネス基盤養成コース ()	4/3(火)～4/12(木) (8日間)	MISA 会員：96,000円 非会員：116,000円
< IT技術系 >		
IT技術基盤養成コース () - システム開発技術・基礎コース - システム開発マネジメント・基礎コース	4/13(金)～5/11(金) (18日間)	MISA 会員：216,000円 非会員：236,000円
オブジェクト指向開発コース ()	5/14(月)～6/1(金) (15日間)	MISA 会員：180,000円 非会員：200,000円

申込は上記の各コース単位で、MISA 会員/非会員問わず先着順に受け付けます。

募集締切までに受講者が確定しない等の諸事情についてはMISA事務局までご相談ください。

厚生労働省の「キャリア形成促進助成金」「実践型人材養成システム」(いずれも各社申請)も適用可能です。申請は各社で事前に直接、宮城労働局へ開催前の照会・申し込みをお願いします。

(制度改正により平成23年4月1日からの同助成金において、大企業に該当する企業は「非正規労働者」のみ補助対象となっておりますのでご注意ください。)

5. 予定定員：各コース共 20名×1クラス (- 、 - は各々20名×1クラス)

6. 研修時間：各コース共 9:30～17:30

7. 会場：NAViS(仙台ソフトウェアセンター) ワークショップルーム

仙台市宮城野区榴岡5-12-55(JR仙台駅東口徒歩12分、JR仙石線榴ヶ岡駅隣接)

8. 対象：ソフト系IT企業に常時雇用予定の新入社員(学歴・中途/新卒問わず)

MISA非会員のソフト系IT企業も受講可

9. 申込方法：別紙申込書にてMISA事務局までお申込ください。第一次締切は1月27日(金)です。

別紙「申込にあたっての留意事項」は必ずお読みください。

10. お問い合わせ先：MISA事務局 TEL:022-217-3023 e-mail:misa@misa.or.jp

[添付別紙] 別紙1:MISA新入社員研修の基本体系

別紙2:MISA新入社員研修・カリキュラム

別紙3:申込にあたっての留意事項

別紙4:新入社員研修申込書

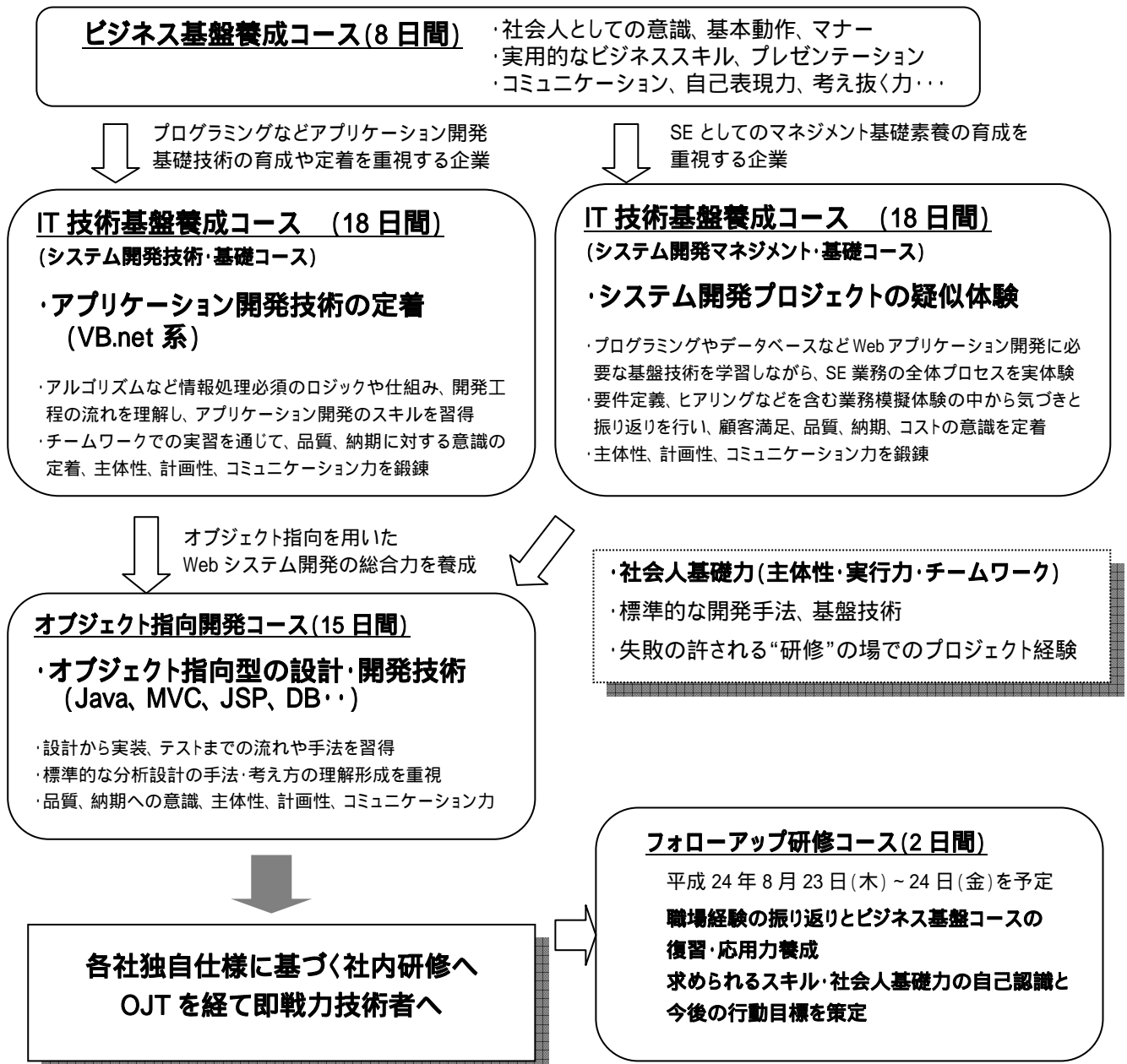
別紙5:フォローアップ研修内容

MISA 新入社員研修の基本体系

< 育成人材像 > MISA 企業の中核となり、将来を担うシステムエンジニアの育成

<p>コミュニケーション コミュニケーション力を発揮しながら、課題解決へ向けた具体的な行動の取れる人材 (2Way、プレゼン、文書、情報活用)</p>	<p>システム化思考力 (業務応用力) 情報システムの構想から開発までのプロセスを理解し、システム化思考のできる人材 (SE 業務プロセスの実体験、品質、納期など)</p>
<p>技術の本質的理解 プログラムの動作原理 (ロジック) を理解しシステム開発において応用できる人材 (アルゴリズム、DB、Web アプリケーション)</p>	<p>自発性・意欲 自らの仕事の意味をしっかりと理解し、自発的に勉強し、考え、活躍しようとする人材 (自学の習慣づけ、技術を自ら追求する癖)</p>

< 研修の基本体系と到達目標 >



別紙2 平成24年度 MISA 新入社員研修 カリキュラム

ビジネス基盤養成コース(8日間) 各日9:30~17:30

コースの目的・狙い:

社会人としての基本動作を習得すると共に、MISA 訓練ならではの特色であるビジネスの実践の場で要求される各種ビジネススキルやコミュニケーション力等の実務基礎スキルを育成します。

育成・到達目標:

1. ビジスマナーの基本動作ができる(挨拶、言葉遣い、接客・電話対応、身だしなみ、名刺交換等)
2. 組織で働く上での基本動作ができる(ビジネス文書作成、報連相、効率性/正確性、PDCA等)
3. 協調性・柔軟性を持った組織内・外コミュニケーションが実践できる。
(チームワーク形成、ミーティング、職場の人間関係形成、接遇、クレーム対応等)
4. 主体性・積極性を持った応用コミュニケーションが実践できる。
(論理思考、企画/プレゼンテーション、積極的傾聴等)
5. ビジネスコミュニケーション力を駆使し、実際の現場で即戦力となるビジネス活動ができる。

カリキュラム:

科目・日程	概要	講師
開校式 (4/3(火)) 9:15~ 開校挨拶、及びオリエンテーション		
ビジスマナー (3日間) 4/3(火)~5(木)	ビジスマナー、コミュニケーション基礎 ・社会人としてのマナー、ビジネスの場で必要な各種コミュニケーションについて学習します。 ・必須の各種マナーをはじめ、指示の受け方、報告の仕方、言葉遣い、接客・電話対応、接遇など現場で必須となる基本行動・コミュニケーション力について、社会人としての意識や人間関係・信頼関係の構築も交えて学習します。 ・ロールプレイング等を中心とした内容により、着実な定着と職場での実践につなげます。	フリーアナウンサー (仙台市) 志伯 暁子
ビジネススキル (2日間) 4/6(金) 4/9(月)	仕事とチームワーク、ビジネス文書 ・仕事への取組意識、対人折衝、チームワークなどIT企業必須のヒューマンスキルに関して、グループでの演習を交えながら実践的に学習。 ・社内外で必要となる文書作成の基本から、議事録・報告書の作成など文書作成を幅広く学習。	庄司和弘経営コンサル ティング事務所 (宮城県美里町) 庄司 和弘
IT ビジネスコミュニケーション (2日間) 4/10(火)~11(水) プレゼン実習見学会 4/11(水)午後を予定	IT ビジネスコミュニケーション ・ITビジネスの商談の進み方、その中で必要となる顧客対応力(ヒアリング、e-mail、コンプライアンス、個人情報保護など)に関する総合的なコミュニケーション力を養います。 企画提案書作成、プレゼンテーション ・プレゼンテーションのためのシナリオづくり、企画書作成、コミュニケーション力を養います。	マネジメントテクノ ロジーズ,LLC (東京都) 尾田 友志

ビジネススキル (1日間) 4/12(木)	論理思考・ディベート ・ロジカルな思考力の鍛錬や会議運営などビジネス スキルの応用力を養います。	マネジメントテクノ ロジーズ,LLC 尾田 友志
【受講者交流会】 (4/6(金)を予定) 17:45~19:30頃	会場: NAViS リンケージルーム(会議室) (飲食費用は協会が負担します。)	

【企業関係者の見学について】

研修成果をご確認いただける機会として、以下の通り企業関係者の見学ができる場を設けます。

4/11(水)午後;プレゼンテーション実習(受講者全員が個人単位でプレゼンを行い、講師の指導を受けます。)

IT 技術基盤養成コース (システム開発技術・基礎コース)(18日間)
各日 9:30 ~ 17:30

コースの目的・狙い:

アプリケーション開発に不可欠な情報処理の基礎技術を養います。Visual Basic + .NET Framework によるプログラミング力の育成と業務アプリケーションの開発プロジェクト演習を通じ、IT企業のシステム開発の基本的な流れや、開発現場における実務的な留意点等に関する理解を深めます。

開発演習では、IT企業の要望の高いコミュニケーション力やチームワーク、主体性、計画力、実行力、お客様目線など、開発現場で要求される人間力も同時に養うことができます。

対 象:

プログラマーやシステム開発技術者に必要な基礎技術の育成と定着を重視する企業
 (事前のプログラミング経験の有無は問いません。)

育成・到達目標:

1. プログラムの基本原則を理解し、基礎的な設計ができる。
2. 業務系システムの必須技術であるデータベースの基本技術を理解し設計・実装できる。
3. オープンソースを基盤とした業務アプリケーション開発技術を理解し、実装できる。
4. 例外処理、バグなど開発現場における必須の留意点を同時に学び、ソフトウェアの品質意識を持つ。
5. 模擬ITシステム開発プロジェクトの実践を通じて、IT開発の全体像や流れを理解できる。
6. チームでのプロジェクト推進の実体験を通じて、リーダーシップやコミュニケーション、主体性や計画力、納期、顧客を意識した行動を現場で実践できる。

講 師: (株)ダavenport(仙台市)取締役 乳井 孝浩

カリキュラム:

本コースは**システム開発現場での基礎技術や要素技術の習得**を重視した内容です。

科目・日程	概 要
開校式 (4/13(金)) 9:15~ 開校挨拶、及びオリエンテーション	
プログラム開発プロセス 4/13(金)(1日間)	・要件定義からプログラムの開発、テスト、デバッグまでの基本的なプログラム開発プロセスをまず理解する。
Visual Basic 2010 プログラミング基礎 4/16(月)~24(火) (7日間)	・プログラムのロジックや設計手法を理解し、基本的なプログラミング力やシステム開発力の定着を目的とした研修。 ・Visual Basic 2010 を題材に、アルゴリズムの組み立てやフローチャートの記述、プログラム構造、データ型や変数、演算子、条件分岐、繰り返し、関数、サブルーチン、プロシージャなどの基本を演習も交えて習得。クラスや継承などオブジェクト指向の基本も学習する。
RDB 入門 4/25(水)(1日間)	・データベースシステムの概要を学習。データベースの構造や仕組みなど業務アプリケーション向け開発の基盤を形成。
DB 操作と SQL 言語 4/26(木)~4/27(金) 5/1(火)(3日間)	・MS SQL Server の各種ツールの使用、SQL 言語を学習すると共に、SQL を使ったデータベース操作を学習。

<p>業務アプリケーション 開発演習 5/2（水）～10（木） （5日間）</p> <p>開発システムの検証・評価は、 受講企業の教育担当者等の見学 も可能とします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アプリケーション開発の初歩として、Visual Basic + .NET Framework による業務アプリケーション開発を学習。 ・講師提示の課題に基づき、グループにて仕様書作成、開発、テスト、プレゼンまでプログラム開発の流れを経験。他社との混合チームとしチームワーク力なども吸収する。 <p>開発システムの検証・評価（5/8（火）を予定） 課題作成プログラム（演習課題）の出来具合等のチェック・指導。 主に「顧客要求を満たしているか」という視点から、受講者同士での相互検証も行う。</p>
<p>業務アプリケーション 開発演習・ プレゼンテーション 5/11（金）</p> <p>プレゼン実習は受講企業の人 事・教育担当者等の参観も可能 とし成果報告の機会とします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前項に引き続き、開発演習とプレゼンに向けた資料等を作成。 ・プレゼンテーション実習によるコース総括と最終指導を行う。 <p>< 課題演習とプレゼン内容について > 内容や開発規模は軽めのものとし、研修内容の定着を主目的とする。 成果物の完成は主目的とはせず、開発プロセスの中での失敗やそれから学ぶ気づきと振り返りを重視。</p>
<p>[受講者交流会] （4/20（金）を予定） 17：40～19：30</p>	<p>会場：NAVIS リンケージルーム（会議室） （ 飲食費用は協会が負担します。）</p>

受講者の習熟度等に応じた柔軟な対応を行う目的において、カリキュラムや時間配分を一部変更する場合があります。

プログラム実習はフレームワークを利用し Windows 上で実施。DB は MS SQL Server を利用。

【企業関係者の見学について】

研修成果をより確かなものにするために、以下の通り企業関係者の見学、助言をいただく場を設けます。

- ・5/8（火） 開発システムの検証・評価（レビュー）
- ・5/11（金）プレゼンテーション実習

IT 技術基盤養成コース (システム開発マネジメント・基礎コース)(18日間)
各日 9:30 ~ 17:30

コースの目的・狙い:

ITシステム開発プロジェクト全体の模擬体験を通じて、標準的な設計技術、Webアプリケーション開発技術、プロジェクトの進め方などSEの総合的な実務基礎スキルを学習します。

研修では標準的なウォーターフォールモデルのケースを用い、失敗の許される“研修”という場において要件定義から設計、開発、テスト、納品まで一連の開発プロセスを体験します。

情報システム開発プロジェクトに参画する基礎力を、要素技術と共に養うことが目標です。

対 象:

システムエンジニアとしてのマネジメント基礎素養の育成を重視する企業

(事前のプログラミング経験の有無は問いません。プログラミング経験者、営業系SEなどの候補者にも適します。)

育成・到達目標:

1. 業務系課題の解決を目指した情報化プロジェクトの実践を通じて、ITシステム開発上流工程からの全体像や流れを理解し、プロジェクト要員としての必要な行動ができる。
2. プロジェクト推進に必須となる計画書の作成、人員やリソースを踏まえた役割分担、仕様書・設計書、議事録などのドキュメンテーションやプレゼンテーションができる。
3. Webアプリケーション開発に必要な基礎技術 (PHP、MVCモデル、SQL等) を有する。
4. 例外処理、バグなど開発現場における必須の留意点を同時に学び、ソフトウェアの品質意識を持つ。
5. チームでのプロジェクト推進の実体験を通じて、リーダーシップやコミュニケーション、主体性や計画力、納期を意識した行動を現場で実践できる。

講 師: (株)デジタルイノベーション(さいたま市)代表取締役 井本 貴志

カリキュラム:

本コースは**システム開発の全体の流れ・マネジメント的内容**を重視したコースとなります。

科目・日程	概 要
開校式 (4/13(金)) 9:15~	開校挨拶、及びオリエンテーション
システム開発プロセス 4/13(金)(1日間)	・システム開発における必要な工程(要求分析~納品)とプロジェクトをマネジメントする上での基本的な要点について理解する。
要求分析・要件定義 4/16(月)~17(火) (2日間)	・課題プロジェクト演習として講師が設定した定型課題を基に受講者間で顧客訪問ロールプレイングを行い、顧客要件をヒアリングし議事録を作成、要件定義書としてまとめる。
ソフトウェア設計 4/18(水)~23(月) (4日間)	・システム化要件定義を受けて、ソフトウェアへの要求事項について外部設計書、内部設計書を作成し、クラス内レビューを行う。
開発システムの検証・評価 は、受講企業の教育担当者等の見学も可能とします。	開発システムの検証・評価 (4/23(月)を予定) 課題プロジェクト演習(定型課題)前半の要件定義と設計書、開発計画等に関するチェック・指導。主に「顧客要求を満たしているか」という視点から、受講者同士での相互検証も行う。
PHP入門 4/24(火)~25(水) (2日間)	・業務アプリケーション開発の初歩として、オープンソース利用の典型であるPHPによるWebアプリケーション開発を学習。

RDB と SQL 言語 4/26 (木) ~ 27 (金) (2 日間)	<ul style="list-style-type: none"> データベースシステムの概要、SQL 言語を学習。データベースの構造や仕組みなど業務アプリケーション向け開発の基盤を形成。
DB 操作と SQL 言語 5/1 (火)(1 日間)	<ul style="list-style-type: none"> MySQL の各種ツールの使用、SQL 言語を学習すると共に、SQL を使ったデータベース操作を学習。
Web/DB 連携プログラム 5/2 (水)(1 日間)	<ul style="list-style-type: none"> 学習した技術の総仕上げとして Web/データベースアクセス型のアプリケーション開発を学習。
Web 開発演習 5/7 (月) ~ 8 (火) (2 日間)	<ul style="list-style-type: none"> 課題プロジェクト演習で作成した設計書を基に開発を行う。 製造したモジュールを、仕様書を基に単体テストを行う。 <p style="text-align: center;">開発チェック (5/8 (火) を予定) 課題プロジェクト演習 (定型課題) の出来具合等のチェック・指導</p>
システムテストと仕様変更 5/9 (水)(1 日間)	<ul style="list-style-type: none"> 仕様書に基づきシステムテストを行い、納品できる状態まで仕上げる。 顧客からの仕様変更も想定した修正、再テストまで実施する。
プロジェクト実績評価 5/10 (木)(1 日間)	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトの計画と実績を基にして、進捗、生産性、品質などの差異分析を行い、プロジェクトの完了評価を報告書にまとめる。 課題プロジェクト演習のプレゼンテーション資料等を作成。
課題プロジェクト演習・プレゼンテーション 5/11 (金) プレゼン実習は受講企業の人事・教育担当者等の参観も可能とし成果報告の機会とします。	<ul style="list-style-type: none"> 業務系の課題を元にシステム開発模擬プロジェクトを推進。グループ演習にて情報システムの企画から設計、開発、テスト、納品までシステム開発の一連の流れをプロジェクトマネジメントの観点から学習。 所属会社や保有スキルを問わず全てバラバラの混合チームに分け、プロジェクトチームで開発していく意義やコミュニケーション、ドキュメントの整備、役割分担と計画、品質など業務系システム開発に不可欠かつ重要な内容を模擬体験できるものとする。 課題プロジェクト演習は研修に並行して進める。
[受講者交流会] (4/20 (金) を予定) 17 : 40 ~ 19 : 30	会場 : NAViS リンケージルーム (会議室) (飲食費用は協会が負担します。)

受講者の習熟度等に応じた柔軟な対応を行う目的において、カリキュラムや時間配分を一部変更する場合があります。

プログラム実習はフレームワークを利用し Windows 上で実施。DB は汎用性の高い MySQL を利用。

【企業関係者の見学について】

研修成果をより確かなものにするために、以下の通り企業関係者の見学、助言をいただく場を設けます。

- ・ 4/23 (月) 開発システムの検証・評価 (レビュー)
- ・ 5/11 (金) プレゼンテーション実習

オブジェクト指向開発コース（15日間）

各日9：30～17：30

コースの目的・狙い：

オブジェクト指向を用いた Web システム開発の総合力を養成します。Java や JSP、Servlet 等の要素技術の定着を中心としながら、PBL（Project Based Learning）による Java 系システム開発模擬演習も交え、Web システムの設計から実装、テストまで一連の開発工程に対する理解を深めます。

対 象：

Web システム開発を事業ドメインする、または新入社員に体験させたい企業

育成・到達目標：

1. オブジェクト指向開発に必要な実践技術（Java、MVC モデル、JSP、DB 等）を有する。
2. UML による標準的な分析設計の手法・考え方を理解し、研修後に各社の独自手法と相対的に比較しながら現場に必要な分析設計ができる。
3. Java 系の模擬 IT システム開発プロジェクトの実践を通じて、オブジェクト指向によるシステム開発の標準的な手法や流れを理解できる。
4. 例外処理、バグなど開発現場における必須の留意点を同時に学び、ソフトウェアの品質意識を持つ。
5. チームでのプロジェクト推進の実体験を通じて、リーダーシップやコミュニケーション、主体性や計画力、納期を意識した行動を現場で実践できる。

講 師：（株）ダベンポート（仙台市）取締役 乳井 孝浩

カリキュラム：

科目・日程	概 要
オブジェクト指向 Java プログラミング 5/14（月）～17（木） （4日間）	<ul style="list-style-type: none"> ・システム開発の手順を理解する。 ・オブジェクト指向言語として主流である Java について、その特徴や基本構文（条件分岐、繰り返し、演算子）、クラスやメソッド、オブジェクト等を解説。 ・クラスの継承や多様性、カプセル化などオブジェクト指向も学習。 ・演習も交えて Java プログラミング基礎力の定着を図る。
サーバサイド Java プログラミング 5/18（金）～5/23（水） （4日間）	<ul style="list-style-type: none"> ・サーバサイド技術である JSP/Servlet、JDBC によるデータベースアクセスに関して学習し、Web アプリケーション開発力を支える基盤技術として吸収する。 ・単純な要素技術ではなく、通信プロトコル、HTML や HTTP といった背景/関連技術の要点を交え、ある程度独り立ちできることを狙いとする。 ・MVC モデル（Controller、View、Model）設計に関して学習し、課題演習のシステム設計へとつなげる。
オブジェクト指向 分析・設計 5/24（木）～25（金） （2日間）	<ul style="list-style-type: none"> ・システム分析・設計の開発モデルを理解する。 ・UML による要求のモデリング、ユースケース図等のシステム分析や設計の基本的なパターンを学習する。 ・課題演習の要件定義・設計図の作成を併せて行う。

<p>業務システム設計開発演習 5/28（月）～5/31（木） （4日間）</p> <p>開発システムの検証・評価は、受講企業の教育担当者等の見学も可能とします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Java系業務システムの設計・開発総合力を演習主体で学習。 ・講師提示の課題に基づき、グループにて設計、開発、テストまで業務システム開発の流れを実践。他社との混合チームとしチームワーク力も吸収する。 <p>（課題演習の設計は、前項のオブジェクト指向分析・設計から開始）</p> <p>開発システムの検証・評価（5/28（月）を予定） 課題作成プログラム（演習課題）の要件定義と設計、仕様書作成、開発計画等について出来具合等のチェック・指導。 主に「顧客要求を満たしているか」という視点から、受講者同士での相互検証も行う。</p>
<p>業務システム設計開発演習・プレゼンテーション 6/1（金）</p> <p>実習は受講企業の人事・教育担当者等の参観も可能とし成果報告の機会とします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前項に引き続き、開発演習とプレゼンに向けた資料等を作成。 ・プレゼンテーション実習によるコース総括と最終指導を行う。 <p>< 課題演習とプレゼン内容について > 内容や開発規模は軽めのものとし、研修内容の定着を主目的とする。 成果物の完成は主目的とはせず、開発プロセスの中での失敗やそれから学ぶ気づきと振り返りを重視。</p>
<p>【受講者交流会】 （5/18（金）を予定） 17：40～19：30</p>	<p>会場：NAVIS リンケージルーム（会議室） （ 飲食費用は協会が負担します。）</p>

受講者の習熟度等に応じた柔軟な対応を行う目的において、カリキュラムや時間配分を一部変更する場合があります。

プログラム実習はフレームワークを利用し Windows 上で実施。DB は汎用性の高い MySQL を利用。

【企業関係者の見学について】

研修成果をより確かなものにするために、以下の通り企業関係者の見学、助言をいただく場を設けます。

- ・5/28（月）開発システムの検証・評価（レビュー）
- ・6/1（金）プレゼンテーション実習

平成 24 年度 MISA 新入社員研修 申込に当たっての留意事項

重要・申込の前に必ずお読みください

【申込にあたっての注意事項】

申込締切

申込の第1次締切は平成24年1月27日(金)です。第1次の申込状況により2次募集を行い、第2次締切は2月17日(金)を予定しています。

受講者確定前の申込

上記の募集締切までに受講者が確定しない場合、受講人数枠で事前予約もできます。MISA事務局宛に別途ご相談の上、仮申込をお願いします。
(クラス定員がありますので、第1次締切迄の申込を推奨します)

受講料の請求と払込

概ね開講1ヶ月前までに事務局より請求書と受講票をお送りいたしますので、指定期日までに振込をお願いいたします。指定期日以後のキャンセルは一切できませんので予めご了承下さい。

コース・クラスの選択

IT技術基盤養成コースは、「 -システム開発技術・基礎コース」と「 -システム開発マネジメント・基礎コース」のいずれかの選択となります。各社の期待する育成内容に応じて適切なコースを選択いただくようお願いいたします。

事前スキル調査

受講者の属性や技術経験等に関する事前アンケートを3月上旬に実施します。調査の結果は研修運営やグループ分け等の参考にしますので指定の期日(3月中旬を予定)までにご提出ください。事情により期日に間に合わない場合はご相談ください。

修了要件について

本研修はMISAが実施する認定職業訓練であり、職業能力開発促進法に基づきます。修了要件は各コース毎に出席率80%以上となります。

【助成金の活用について】

雇用能力開発機構「キャリア形成促進助成金」の受給対象となります。

(<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/josei/kyufukin/d01-1.html>)

制度改正により平成23年4月1日からの同助成金において、大企業に該当する企業は「非正規労働者」のみ補助対象となっておりますのでご注意ください。

受講料、人件費共に助成対象となりすでに実績があります。受給資格認定は宮城労働局の判断になりますので、詳しくは宮城労働局職業安定部まで事前に照会してください。キャリア形成促進助成金担当者に「MISA認定職業訓練のキャリア形成申請」と伝えればわかります。(本新人研修を受給対象とする場合、事前の3月の受給申請が不可欠です)。

「実践型人材養成システム」(実習併用職業訓練)としての申請も可能です。

- ・ 認定職業訓練と社内でのOJTを組み合わせた「実践型人材養成システム」への申請も可能です。認定職業訓練2ヶ月での受講料や期間中の人件費などの助成が受けられます。

以 上

宮城県情報サービス産業協会 事務局 御中

Fax. 022 - 217 - 3055 E-mail misa@misa.or.jp

「MISA 新入社員研修」申込書

貴社名 _____

貴社住所 〒 _____

申込担当者名 _____ 担当者所属・役職 _____

TEL. _____ E-Mail. _____

参加者欄						
参加者氏名	申込コース(○をつけてください)					フォローアップ 研修()
1						
2						
3						
4						
5						

コース一覧:

ビジネス基盤養成コース [4/3~4/12]

- IT 技術基盤養成コース (システム開発技術・基礎コース) [4/13~5/11]
- IT 技術基盤養成コース (システム開発マネジメント・基礎コース) [4/13~5/11]
- オブジェクト指向開発コース [5/14~6/1]

フォローアップ研修の欄は事前調査を目的としています。申込時点で受講を予定されている場合に「」をつけてください(受講義務は発生しません)。新人研修終了後の6月中旬頃に受講の意思確認をさせていただき、申込書の送付後、正式受付といたします。

研修運営上の事務連絡については原則メールで行いますので、担当者メールアドレスは必ずご記入ください。

受講者の現有技術からコース選択の判断に迷われる場合は事前に MISA までご相談ください。

5名以上の申込の際は本用紙を複写してご利用ください。同一企業からの複数人数の受講に関しては、極端に多人数にならない限り人数調整の上、原則として全員を受け入れいたします。

申込の第一次締切は、平成 24 年 1 月 27 日(金)です。

受講者の個人情報に関しては MISA 事務局での保管となり、MISA の個人情報保護規定に基づき運用いたします。目的外使用は致しません。



[別紙5:参考]

<http://www.misa.or.jp>

一般社団法人宮城県情報サービス産業協会
新入社員フォローアップ研修内容

研修目的：

本研修は、平成 24 年度採用の新入社員を対象に、新入社員研修後の実務あるいは OJT/社内教育を踏まえてフォローアップを行い、会社からの期待に応えられる人材になるための自己成長力向上とプロ意識の確立、対人能力や行動力のアップを図ることが目的です。

また、新入社員研修から数ヶ月程の期間が過ぎた中で、同世代の異なる企業の受講者間での交流を深め刺激を享受し、今後の成長の糧にしてもらうことも目的としております。

受講対象者：平成 24 年度採用の新入社員

所属部門等は問いません。

MISA 新入社員研修の受講有無や、MISA 会員・非会員は問いません。

(新人研修申込時の事前調査欄に「 」をつけた方は優先的に受け付けます。)

日時・会場：平成 24 年 8 月 23 日(木)～8 月 24 日(金)、9 時 30 分～17 時 00 分、
NAVIS リンケージルーム

受講料：MISA 会員：18,000 円 (2日間)
非会員：20,000 円 (2日間)
講師独自資料代込み、消費税の別途負担なし

お申込：6 月中旬頃に新人研修申込時の事前調査の受講意思確認、および一般参加者を含めた募集案内の通知を行います。

計画カリキュラム(全て演習中心)：

(時間:9:30～17:00(昼休み 12:00～13:00) 2 日目終了後会場にて受講者交流会を開催)

研修名	内容
ビジネスマナー&コミュニケーション (志伯講師) 8/23(木) (6.5 時間)	ビジネスマナーの振り返りと応用 挨拶、名刺交換、敬語、立ち振る舞い、言葉づかいや表現の仕方、電話対応など(ロールプレイング中心) ビジネスの現場でのコミュニケーション(伝え方の視点) プロの電話対応、相手に合わせて効果的に伝えるスキル、相手を動かす話のまとめ方、スピーチ術など(ロールプレイング中心)
ビジネススキル&社会人基礎力 (庄司講師) 8/24(金) (6.5 時間)	周りからの期待に応えるための必要スキルと社会人基礎力 実力ビジネスパーソンに期待される能力 現状の社会人基礎力の自己検証と評価、今後の行動目標設定 主体的キャリア形成と自己能力開発ポイント、 自己管理の手法 など

研修の進捗や受講予定者の状況等により内容や時間配分等を予告なく変更する場合があります。

< 予定講師 > (4 月実施の MISA 新人研修「ビジネス基盤養成コース」の講師が担当)
志伯 暁子 氏(仙台市 / フリーアナウンサー、キャリアトーク主宰)
庄司 和弘 氏(宮城県美里町 / 庄司和弘経営コンサルティング事務所 代表)